

福井農試第287号  
平成19年4月9日

各関係機関の長 様

福井県農業試験場長  
(公印省略)

農作物病虫害発生予察予報の送付について

このことについて、下記のとおり発表しましたので送付します。

連絡先	福井県農業試験場 病虫害防除室
☎	0776-54-5100
FAX	0776-54-6403
E-mail	fukui_byougai@fklab.fukui.fukui.jp

平成19年農作物病虫害発生予察予報第2号

5月の気象概況

天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れる日が多いでしょう。  
期間の気温は平年並みか高い、降水量は少ないと予想されます。

[ 水稲関係 ]

病虫害名 ばか苗病

1. 予報内容

発生時期：発病最盛期は4月下旬。

被害程度：微発、局少発。

発 生 量：育苗期の発生量は平年より少なく、前年並み。

2. 防除対策および防除上の注意点

発生予察予報第1号のとおりであるが、特に種子消毒は浸種前に行い、浸種開始から3日間は換水を控える。

病虫害名 苗いもち

1. 予報内容

被害程度：少発

発 生 量：平年より少なく、前年よりやや多い。

2. 防除対策および防除上の注意すべき事項

(1) 比重選、種子消毒を十分に行う。

(2) 種籾が露出していると発生しやすいので、厚まきはさけ、覆土を十分に行う。

(3) 育苗施設内の換気に気を付け、過湿にしないようする。

(4) 育苗施設内や周辺に放置してある稲わらや籾がらは伝染源となるので、除去する。

(5) 育苗箱施用剤にMBI D剤を使用する場合は、耐性菌対策として播種時にペノミルを含む薬剤を併用する。

(6) 発病の恐れがある場合や発生を確認した場合には液剤、水和剤で防除する。育苗期の薬剤防除は苗いもちだけでなく、本田の葉いもちを抑制する効果がある。

病害虫名 各種苗立枯病（糸状菌）

1. 予報内容

発生時期：初発は4月中旬

発生程度：少発、局中発

発生量：平年・前年より少ない。

2. 防除対策および防除上の注意すべき事項

(1) 床土のpHは4.5～5.1程度とする。

(2) 前年発生を認めた育苗箱や古い育苗箱は洗浄消毒する。床土消毒は病原菌によって防除剤が異なるので注意する。

(3) 極端な早播き、厚播きを避け、育苗ハウスの温湿度管理（夜間5 以下、昼間25 以上にならないように管理する。多湿を避ける）に留意し健苗育成に努める。

病害虫名 褐条病、もみ枯細菌病、苗立枯細菌病

1. 予報内容

発生時期：初発は4月中旬

発生程度：少発、局多発

発生量：平年並み、前年より多い。

2. 防除対策および防除上の注意すべき事項

(1) 床土のpHは4.5～5.1程度とする。

(2) 傷初物の混入が多い種子は使用を避ける。

(3) 極端な早播き、厚播きを避け、育苗ハウスの温湿度管理（夜間5 以下、昼間25 以上にならないように管理し、多湿を避ける）に留意し健苗育成に努める。また、灌水に湖沼や河川の水は使用しない。

(4) ハトムネ催芽器を使用すると褐条病の発生が多くなるので注意する。

(5) もみ枯細菌病、褐条病発生地およびその周辺の種物は使用しない。

(6) 消毒後は、必ず風乾し、薬剤を固着させる。

(7) 発病後の防除薬剤はないので注意する。

**[ 大麦関係 ]**

病害虫名 赤かび病

1. 予報内容

発生時期：初発は4月末

被害程度：少発、局中発

発生量：平年、前年より少ない

2. 防除対策および防除上の注意点

(1) 防除適期は開花はじめ～開花盛期である。そのために穂揃期とその7日後の2回薬剤防除を行う。

(2) 出穂期以降に降雨が続くと多発するので、天候の様子を見て防除を行い、防除時期が遅れないように注意する。

病害虫名 雲形病

1. 予報内容

被害程度：微発、局中発

発生量：平年、前年並み

2. 防除対策および防除上の注意点

(1) 本病は進展速度が遅いので、局部発生であれば防除の必要はない。

- ( 2 ) 発生の多い圃場では止葉抽出期に薬剤を散布する。
- ( 3 ) 種子伝染するので発病圃場からは採種しない。

病害虫名 株腐病

1. 予報内容

被害程度：少発、局中発

発 生 量：平年並み、前年より多い

2. 防除対策及び防除上の注意点

- ( 1 ) 麦の生育量が多い圃場では、発生が多くなるので注意する。
- ( 2 ) 発生を認めたら、発生初期に薬剤を散布する。

【 果樹関係 】

果樹名	病害虫名	予 報 内 容			防 除 対 策
		発生時期	被害程度	発 生 量	
ナ シ	黒星病	初発： 5月中旬	( 5月 ) 少発	( 5月 ) 平年：少 前年：並み	1)脱苞期～交配直後にかけて重点防除する。 2)同一薬剤の連用は避ける。
	黒斑病	初発： 5月中旬	( 5月 ) 少発	( 5月 ) 平年：並み 前年：並み	1)脱苞期～交配直後にかけて重点防除する。 2)同一薬剤の連用は避ける。
	赤星病	初発： 4月下旬	( 4月 ) 少発	( 4月 ) 平年：少 前年：並み	1)中間寄主のビヤクシ類はできるだけ広範囲に伐採する。 2)防除は開花直前から5月上旬にかけて行う。
ウ メ	黒星病	果実初発 5月中旬	少発 局中発	平年：並み 前年：並み	1)展葉初期から防除する。 2)多発圃場では散布間隔を10日以内にす る。
	灰色かび 病	果実初発 4月下旬	少発 局中発	平年：並み 前年：並み	1)開花終了直後から展葉期にかけて防 除する。 2)雨天が続く場合は追加防除を行う。
	かいよう 病	果実初発 4月下旬	少発 局中発	平年： やや多 前年：並み	1)常発地では葉芽発芽前に防除する。 2)生育期(4月上旬～5月)に抗生物質剤 で防除する。 3)防風対策等を実施する。
	アブラム シ類	加害初期 4月上旬	少発 局中発	平年：並み 前年： やや多	1)展葉初期～生育期に防除する。